

## 国立大学図書館協会地区協会助成事業 実施報告書

地区名	九州地区（主担当大学：九州大学）
事業名	学習・教育支援に関する専門性向上研修会の実施
事業目的・趣旨	<p>各大学図書館では、利用者のリテラシー能力向上のために、図書館職員による図書館活用、情報探索のためのガイダンスやセミナーを開催している。開催にあたって担当者は、各大学図書館の利用者の特性、図書館が活用できるコンテンツに基づき、毎年工夫を重ねているが、どのようにすればより効果的なガイダンスやセミナーを実施できるのかという課題を抱えていると思われる。</p> <p>本事業は、人はどんなときによく学べるのかという学習科学の入門的な内容の講義と実習を組み合わせ、各大学でのガイダンスやセミナーに役立つ実践的な研修会である。</p> <p>なお、九州大学では過去数年、学内で同様の研修会を実施して成果をあげた実績があり、本事業ではこれを地区へと拡大するものである。</p>
実施内容	<p>学習・教育支援に関する専門性向上研修会の実施</p> <p>タイトル：図書館での学びをデザインするために  開催日：平成26年11月27日（木）13:00-17:00  開催場所：九州大学 箱崎キャンパス 中央図書館  対象：学習支援に関心のある大学図書館職員  講師：益川弘如准教授（静岡大学）、合田美子准教授（熊本大学）</p> <p>プログラム：</p> <p>○セッション1（140分） 益川准教授</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 人はいかに学ぶか、どのような時にうまく学べるのかについて、学習科学の知見や実践例に基づく講義</li> <li>・ 効果的な学びの手法としてジグソー学習の体験実習</li> </ul> <p>○セッション2（70分） 合田准教授</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 図書館ガイダンスや館内ツアーなど図書館で実施している講習会の効果や魅力を高めるのに役立つインストラクショナル・デザインの手法に関する講義</li> </ul>

<p>事業の成果 (アンケート調査結果、事業への意見・感想等)</p>	<p>本研修会は、多くの関心を集め、九州地区を中心に 23 大学 41 名の図書館職員が参加しており、ニーズに即したテーマ設定であったといえる。</p> <p>研修会で学んだことをその場限りで終わらせず、実際の業務へ転移するきっかけとなるよう、研修会から 10 日ほど経過した後、受講生に振り返りアンケートを送付した。</p> <p>アンケート調査の結果（回答率 75.6%）では、「研修会全体で有益な時間を過ごせた」という問いに対して、「非常にそう思う」と「ややそう思う」とが回答の全てを占めており、受講者から高い評価を得た研修であった。</p> <p>また、研修会の時間的な制約もあつてか難しくてよく分からなかったという趣旨の回答がいくつかあったものの、協調学習やインストラクショナル・デザインの有効性についてほぼ全ての回答者が理解を深めていた。特に、セッション 1 のジグソー法の体験実習には、「他人任せになりがちなグループ学習において誰もが主役になるという点で大変有効だと感じました」「他人に説明しようとする行為、自分と他人の思いを対比させ俯瞰する行為、複数の人で同じ問題を解こうとする行為が有効であることを学んだ」といったコメントが寄せられ、アクティブラーニング手法の効果について身を持って理解していた。</p> <p>さらに、「学んだ内容は、所属組織の学習・教育支援活動を改善するにあたって、役に立ちそうである」という問いに対して、セッション 1 では、「非常にそう思う」と「ややそう思う」とで回答者の 9 割以上を占めていた。セッション 2 においても、「図書館で実施している講習会について、そもそもの目標設定や受講者の分析から出来ていないことを痛感しました。学生にどのようなスキルを身につけさせたいのかについて根本から問い直すことが必要だ」といった業務改善に向けたコメントが多く寄せられた。</p> <p>以上、ニーズに即した研修の機会を幅広く提供できたこと、多くの受講生が有益な時間だったと感じていること、実際の業務改善につながるような省察を引き出したことから、本研修は、非常に意義の大きいものであったといえる。</p>
<p>経費</p>	<p>旅費 70,680 円 謝金 81,000 円 計 151,680 円</p>

平成 26 年 10 月 23 日  
九州大学附属図書館

**国立大学図書館協会地区協会助成事業 九州地区  
研修会「図書館での学びをデザインするために」開催のご案内**

大学には学生の主体的な学びを促す教育への転換が求められており、図書館もこの変化に積極的に対応していく必要があります。文部科学省科学技術・学術審議会学術分科会学術情報委員会の審議のまとめ「学修環境充実のための学術情報基盤の整備について」（平成 25 年）では、アクティブ・ラーニング推進や学習時間増加を支える学修環境として、図書館のコンテンツ・学習空間・人的支援を整備することが極めて重要であるとの提言がなされています。

また、従来から、図書館では、学習・教育支援の一環として、学生の情報リテラシー向上のために、情報検索講習会などのガイダンスを実施してきました。利用者の特性、図書館で活用できるコンテンツに基づき、毎年工夫を重ねていますが、どのようにすれば新しい教育のあり方に対応したガイダンスを効果的に実施できるのかという課題を抱えています。

今後、図書館職員は、効果的な学修環境を整備していくにあたり、人がどのようなときによりよく学べるのかという基本的なメカニズムを知っておくことが欠かせません。

九州大学附属図書館では、本学の教育改革推進を目的とした「教育の質向上プログラム Enhanced Education Program:EEP」の支援を受け、平成 23 年度から 26 年度にかけ、学習支援に関する研修会を実施してきました。今回ご案内する下記の研修会は、これまでの本学での成果をふまえ、その内容を発展させ九州地区へと拡大するものです。

本研修は図書館職員が学習科学やインストラクショナル・デザインに関する基礎知識を習得し、図書館の様々な学習・教育支援活動に役立てることを目指します。

関係の皆様のご参加をお待ちしております。

記

日時：平成 26 年 11 月 27 日（木）13:00～17:00（受付 12:30～）

会場：九州大学 箱崎キャンパス 中央図書館 新館 4F 視聴覚ホール

<https://www.lib.kyushu-u.ac.jp/ja/libraries/central/locations>

対象：学習支援に関心のある大学図書館職員

定員：30 名

※ 国立大学図書館協会地区協会助成事業として実施するため、九州地区の国立大学図書館職員の方を優先させていただきます。ただし、座席に余裕がある場合には、九州地区以外の方、公私立大学図書館の方もご参加いただけます。応募者多数の場合は 11 月 14～17 日に結果をお知らせします。）

講師：益川弘如准教授（静岡大学）、合田美子准教授（熊本大学）

申込方法：参加ご希望の方は以下のフォームから事前にお申し込みください。

<https://www.lib.kyushu-u.ac.jp/ja/webform/seminar20141127>

申込締切：平成 26 年 11 月 13 日（木） 17:00

プログラム：

13:00～13:10 開会挨拶

13:10～15:30 セッション1 「人はどのように学ぶのか」[仮題]

益川弘如准教授（静岡大学）

人はいかに学ぶか、どのような時にうまく学べるのかについて、学習科学の知見や実践例に基づきご講義いただきます。効果的な学びの手法としてジグソー学習を実際に体験します。

15:30～15:40 休憩

15:40～16:50 セッション2 「講習会をデザインする」[仮題]

合田美子准教授（熊本大学）

図書館ガイダンスや館内ツアーなど図書館で実施している講習会の効果や魅力を高めるのに役立つインストラクショナル・デザインの手法についてご講義いただきます。

16:50～17:00 閉会挨拶

留意事項：

本研修会の様子は、撮影を行い、学習支援スキル向上のための教材として、認証付きのサイトで後日公開する予定です。研修受講者の姿が映像に映り込むこともございます。参加にあたっては撮影をご了承いただくようお願いいたします。

撮影および教材作成は、科研の事業 [JSPS26280120、2014 年度基盤研究(B) 代表者：渡邊由紀子 九州大学・准教授] として行われます。

問い合わせ先：

九州大学附属図書館 e リソースサービス室 e リソースサポート係

担当：兵藤・工藤

092-642-2336 / toesupport@jimu.kyushu-u.ac.jp

**国立大学図書館協会地区協会助成事業 九州地区**  
**学習・教育支援に関する専門性向上研修会「図書館での学びをデザインするために」**  
**参加者内訳およびアンケート結果**

平成 27 年 3 月 16 日  
e リソースサービス室 e リソースサポート係

## 1. 研修会概要

日 時：平成 26 年 11 月 27 日（木）13:00～17:00

会 場：九州大学 箱崎キャンパス 中央図書館 新館 4F 視聴覚ホール

講 師：益川弘如准教授（静岡大学）、合田美子准教授（熊本大学）

参加者：大学図書館職員 41 名

目 的：学習科学やインストラクショナル・デザインに関する基礎知識を習得し、様々な学習・教育支援活動に役立てることを目指す。

プログラム：

○セッション 1（140 分） 益川准教授

- ・ 人はいかに学ぶか、どのような時にうまく学べるのかについて、学習科学の知見や実践例に基づく講義
- ・ 効果的な学びの手法としてジグソー学習の体験実習

○セッション 2（70 分） 合田准教授

- ・ 図書館ガイダンスや館内ツアーなど図書館で実施している講習会の効果や魅力を高めるのに役立つインストラクショナル・デザインの手法に関する講義

## 2. 参加者内訳

合計 23 大学 41 名

区分	地区	大学名
国立 (13 大学 25 名)	九州地区 (9 大学 20 名)	九州大学 6、熊本大学 3、九州工業大学 2、佐賀大学 2、長崎大学 2、琉球大学 2、鹿児島大学 1、福岡教育大学 1、宮崎大学 1
	他地区 (4 大学 5 名)	千葉大学 2、神戸大学 1、岐阜大学 1、滋賀医科大学 1
市立 (1 大学 2 名)	九州地区 (1 大学 2 名)	北九州市立大学 2
私立 (9 大学 14 名)	九州地区 (9 大学 14 名)	福岡大学 5、九州国際大学 2、九州共立大学 1、九州女子大学・九州女子短期大学 1、西南学院大学 1、西南女学院大学 1、長崎純心大学 1、福岡工業大学 1、福岡女学院大学 1、

## 3. アンケート

### 3.1. 概要

目 的：研修会の評価指標とする。

受講生に振り返りの機会を提供し、実際の業務への転移を促す。

方 法：Web 上にアンケートフォームを作成。

受講生にメールを送信し回答を依頼。

回答期間：12 月 8 日（月）～22 日（月）

### 3.2. 結果

#### 3.2.1. 回答者数

31名（回答率75.6%）

#### 3.2.2. 有益度

	非常にそう 思う	ややそう思 う	どちらとも いえない	あまりそう 思わない	全くそう思 わない
研修会全体では有益な時間 を過ごせた。	18 (58%)	13 (41%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)
セッション1では有益な時 間を過ごせた。	23 (74%)	8 (25%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)
セッション2では有益な時 間を過ごせた。	7 (22%)	11 (35%)	11 (35%)	2 (6%)	0 (0%)

#### 3.2.3. 期待との一致度

	非常にそう 思う	ややそう思 う	どちらとも いえない	あまりそう 思わない	全くそう思 わない
セッション1の内容は期待 していたとおりでた。	12 (38%)	15 (48%)	4 (12%)	0 (0%)	0 (0%)
セッション2の内容は期待 していたとおりでた。	6 (19%)	9 (29%)	10 (32%)	5 (16%)	1 (3%)

#### 3.2.4. 実際の業務への応用可能性

	非常にそう 思う	ややそう思 う	どちらとも いえない	あまりそう 思わない	全くそう思 わない
セッション1で学んだ内容 は、所属組織の学習・教育 支援活動を改善するにあた って、役に立ちそうであ る。	12 (38%)	18 (58%)	1 (3%)	0 (0%)	0 (0%)
セッション2で学んだ内容 は、所属組織の学習・教育 支援活動を改善するにあた って、役に立ちそうであ る。	9 (29%)	9 (29%)	11 (35%)	2 (6%)	0 (0%)

#### 3.2.5. 学んだことの振り返り

質問： 受講して何を学びましたか？ 具体的にご記入ください。また、所属組織の学習・教育支援活動の改善や、今後のご自身の業務に、どのように活用できそうでしょうか？ 思いつくことがありましたら、あわせてご記入ください。

以下、回答中において、研修成果を実際の業務へ適用することにポジティブな言及には下線を付した。

##### セッション1

- (1) ジグソー学習の手法。ガイダンス・講習会の演習の方法として活用できるのではないかと考えています。

- (2) グループ学習の有効性をよく認識できた。ただ、それと共に、図書館職員がリーダーシップを取って教育活動を行う際の困難にも思い至った。
- (3) 知識を定着させるための講義方法について、大変わかりやすく教えていただけました。また、21世紀型スキルを發揮できるエキスパート（＝適応的熟達者）の育つ環境造りについて、大変興味深いお話を伺いました。次年度の初学年次向けガイダンスの内容を考えるにあたって、今回学んだジグソー法を用いたアクティブラーニングの手法を取り入れることができないか、検討中です。
- (4) インストラクショナル・デザインの理論を学び、やジグソー活動を実際に体験できて良かった。利用説明会等でも学生同士で学ぶことができるようなプログラムを取組めたらよいと感じた。
- (5) 知識基盤社会である21世紀において必要とされているスキル・そのスキルを發揮できる人になるための学習法の例対話を通して自分の知識を再構成する、また全員が参加せざるを得ない状況にする、といった、実際のガイダンスや講習会に活かせるようなヒントをいただきました。ただ、前半の領域知識・資質能力のお話と、後半のジグソー法のつながりが完全には飲み込めなかったのも、もう一度勉強し直したいと思います。
- (6) 二人以上で、それぞれが持つ異なる情報を共有し、同じ目的の達成をめざすことで、各々の理解が深まっていくという仕組みがわかった。とくにジグソーメソッドの、スタート地点の知識量をフラットにすることで、グループの全員が話さざるを得ない状況、力を合わせざるを得ない状況を作り出すという仕掛けが面白いと思った。そしてその「せざるをえない」ということが、マイナスにはなっていない（＝自分の知らないことをきける、相手が持っていない知識を話せる、目的達成にはやく近づける→結果的に満足感につながる）ことがポイントだと思った。
- (7) 「2種類の熟達プロセス」の違いが学べて良かった。大学教育カリキュラムも情報リテラシー教育も「定型な学び方」を教えていけば後は勝手に発展・応用していけるのだらうと思っていたが、そうではないようだ。「人はどのように学ぶか」を考えた上で教えていくことが重要だと思った。これまでは、限られた時間のなかでどれだけ効率的に教えられるかということに重点を置きがちだったが、今後は学習者に自ら考えさせながら教えていく方法も模索していきたい。
- (8) ディスカッションの重要性を感じていましたが、人に説明し説明され、そしてそれをさらに発展させるということに建設的相互作用が働くことがさらに自身の理解を深めることにつながるということを学びました。現在、図書館利用説明会で説明会の内容によっては学生に検索および資料の探索を実践させています。そこで、まず図書館員側から検索方法を提供するのはなく学生に方法を模索してもらうことでより理解が深まるのではないかと考えました。限られた時間内でどれだけ情報を提供できるかも大事ですが、学生がその情報をどうすれば活用できるかを考えさせることも大事なのではないかと考えます。
- (9) ジグソーメソッドについて実際に体験できたのが収穫でした。ただ、準備にとっても時間がかかることもわかったため、すぐに自分自身の職場の講習等に活かすのは難しいと感じました。
- (10) ジグソー法が学生への図書館オリエンテーションに役立ちそうだと感じました。ただ、私は短時間では理解を深めることができなかったので、もう少し勉強してみようと思います。今後、自分が所属している研究会などで他の図書館の方と試してみたいと思います。
- (11) 一方的な学習支援ではなく、学生自らが考える能力を身につける事ができる学習支援方法について学びました。自館で実施している情報リテラシー教育の内容を利用等の説明をするだけでなく、グループ毎に課題を与え回答を求めていくような内容に切り替えるように検討します。
- (12) 実体験を通して、ジグソー学習法の面白さを知りました。この手法を図書館での講習会に活かさないかと考えていますが、まだアイデアはまとまっていません。
- (13) これまで授業の1コマでデータベース等の利用法を紹介したとき、時間の関係等で演習問題の際にかなりヒントを出してから解いてもらっていた。まずはヒントを与えずに考えてもらう方が教育効果が高いというのは、すぐに取り入れられるのではと感じた。また、講義内容だけでなく、ジグソー法の体験時、他大学の事例を聞いたことも収穫だったと思う。
- (14) グループでお互いに学びあう学習の有用性についてお話をお聞きしましたが、図書館にそのようなグループ学習の場をつくるのと同時に、学生にそのような場として認めてもらえるような広告が必要なのではと思った。
- (15) 学習者の学びの仕組みを知ることにより、どのようにスキル習得をする仕組みを作るかを考えることができた。自発的に学習者が学びたいと思う環境を作ることに取り組みたい。
- (16) これからの学習支援計画へのヒントをいただいた。学生の集中力を持続させるような学習支援をするために今回学んだことを役立てたいと思います。
- (17) 用意された資料の知識を含めて、互いに自分の体験を話せて、しかもキャッチボールのように話し合いができるのが楽しい、というのが分かりました。これから学生への学習支援や、自分の職場での取り組みを考えるのにも、ヒントになりそうです。
- (18) 学習には他人に説明しようとする行為、自分と他人の思いを対比させ俯瞰する行為、複数の人で同じ問題を解こうとする行為が有効であることを学んだ。ガイダンスを行う際にはこれらのことを考えながら学生が有効に学べるよう企画していきたい。
- (19) 学習方法の提案のひとつとして、また図書館発のイベントとして、活用できそうだった。
- (20) 学習方法によって理解度がかなり異なることが興味深かった。
- (21) 質の高い学習に必要なのは、個人の意欲だけではなく、効果的な手法を組み合わせることが肝心だということが体験できました。図書館においてこれを実践していく際には、学生たちに、単にジグソー学習法等が非常に優れていると感じるだけで終わるのではなく、こうやって工夫された構成で物事に取り組むことによって、より良い効果が得られるということも伝えられたらと思いました。
- (22) ジグソー法というアクティブラーニングの手法を体験することで、身につけることができた。また、グループワークでは、ガイダンスなどの具体的な場面を例に「日常における問題解決場面を想定したキーワードを設定する」「検索方法を先に説明せずに、まずは自分たちで考えてもらい、その後ペアになってお互いの方法を見せ合う」「ピアレビューやピアインストラクションで学生同士の教え合いを促す」等の改善案が見つかった。
- (23) 協同学習の効果の高さと今教育現場で試験的に行われている新しい形の学習形態を知ることができて、とても勉強になった。図書館の利用方法を説明する説明会において、受講者の記憶定着率の悪さが問題になっていたのも、実習していただいた方法を試してみたいと思います。
- (24) 問題設定の難しさを感じた。出来れば、その点に関してもご教示願いたい。
- (25) 今回学んだジグソー学習法は、他人任せになりがちなグループ学習において誰もが主役になるという点で大変有効だと感じました。
- (26) 主体的な学びの効果今後の授業や講習会において、こちらが示す手順に従って操作させるだけでなく、学生自身に考えさせる機会を設けてみたいと思いました。

- (27) ジグソーを効果的に使って、情報リテラシー教育を実施してみたいと思いました。
- (28) 正直、学習科学などと言われてもピンとこなくて（すみません）期待していなかったのですが、非常に面白くて戻ってすぐに本を購入させていただきました。まず、私が何とも言えない「ワクワク」を久しぶりに感じました。新しい風を吹き込むのは難しいことではありますが、利用者の学習支援につなげられるように、考えるだけではなく実際に試しながら、活用できたらと思います。
- (29) 学習科学について学び、実際に活用する際のヒントを得ることができました。図書館で実施する講習会の他、図書館内での人材育成（後輩や図書館で雇用している学生の指導など）にも活用できる内容だと思いました。
- (30) 人が「学ぶプロセス」について、実践を通し学びました。今後の図書館での情報リテラシーや講義等では、説明者側の一方的な説明に終始せず、受講者が自身で気づくことができる「学び」へと切り替えていこうと考えました。それが、「学んだ」という実感を伴う身につく学びだと思えます。また、大学でのSD研修にも手法として活用できると思えます。
- (31) ジグソー法を使つてのワークショップはとても参考になりました。当初はセッション1よりセッション2の方に期待していましたが、受講後はセッション1の方が期待以上でした（こういう場合、「期待していたとおり」、とは違うんですけど何を学ぶべきか難しいですね）。良かった、という意味で「非常にそう思う」を選びましたが、当館では講習会で実習問題を取り入れています、最初から1人で取り組ませるのではなく、例えば2人でペアになって相談しながら解かせるとか、解説の後に実習問題をやるのではなく最初に実習問題を解かせて、間違えてる人には何が問題なのか気付いてもらう、といった方法も有効なのかなと感じました。

## セッション2

- (32) インストラクショナルデザインの概要を学んだ。ガイダンス・講習会は、単独の担当者の努力に負うところが大きく、担当者によって内容や質が大きく異なると感じていました。インストラクショナルデザインの手法を活用して設計から文書化することで、質を揃えたり複数の担当で分担することができるのではないかと思います。
- (33) 教育工学の歴史・理論について詳しく知ることができた。ただ、学術上の理論を図書館教育の現場においてどのように応用すべきか、実務的な観点に立った解説も、もう少し聞きたかった。
- (34) インストラクショナル・デザインについて、わかりやすく解説していただきました。IDプロセスモデルの一つであるADDIEモデルの紹介があり、一度IDのモデル通りにつくってみる。その後、改善していくとうまくいきやすい、と示唆していただきました。学生向けのガイダンスを再検討する際に、特に「入口」「出口」を意識して検討したいと思えます。
- (35) 勝手に期待していたのかもしれないが、インストラクショナル・デザインの理論等は資料でも学べるが、その理論等をどう大学図書館の現場に落とし込んでいけるか（実例）が知りたかった。
- (36) インストラクショナル・デザインについて、今後自分で調べたり学んだりするための概念とキーワードをいただけたいと思います。一方、多くの内容を少しずつ抜き出して講義してくださったため、インストラクショナル・デザインについてまったく初学者の身からすると、講義内容が図書館で行うガイダンス等にどうつながってくるのかなかなか把握しきれない部分がありました。
- (37) 授業設計の方法、授業成果の評価方法→入口（授業スタート時）と出口（授業終了後）を明確にする＝スタート時と比べて何ができるようにすればok、という具体的なステップを評価指標とすること、またその指標は教員だけではなく授業を受ける学生にも明確になっている必要があるということ。
- (38) あるクラスにリテラシー講習会を行ったあと、別のクラスに講習会を行う際には、前回の内容をもう一度検討し修正し練習問題を作成するなどして講習会の準備をする。あまり意識していなかったがこのようなサイクルがIDプロセスモデル（ADDIEモデル）に当たるのではないかと思います。今回の研修で、どのような点をチェックしていけばいいかを学ぶことができたので、配付資料3（「表2 教育・研修のIDチェックリスト」）をもとにさらによりよい講習会ができるよう、参考にしていきたい。
- (39) 「学習意欲の第一原理」が一番興味深い内容でした。自館では図書館利用説明会や各講習会は図書館側からの一方的な情報提供しかできていないのが現状であり利用者、特に学生のニーズやウォンツがつかめているとは言いがたいです。しかし、中でもどのような状況が学習意欲（興味）を増進させるのかを掘めれば、現在実施している講習会の内容を少し変化させるだけで学生のニーズを満たすものが生まれる可能性があるのではないかと考えます。
- (40) インストラクショナル・デザインの基本と歴史について整理することができました。ただ、説明の文量が多かったので消化するのに時間がかかりそうです。理論を活用した具体例を紹介してもらえるとより理解が深まったかもしれません。職場の講習について、今回教えていただいた理論をもとに見直しをしてみる予定です。
- (41) 教育工学の歴史がこんなにあるのかと感心しました。
- (42) 研修を行う前の授業設計、教材設計について学びました。研修等を行う際にIDの5観点からチェックリストを活用しようと思えます。
- (43) 講義にメディアを取り入れた場合の記憶の定着率の上がり方に驚きました。画像などを画面に取り入れる上で、左上端から右下端への曲線上が認識しやすいゾーンで、そこに伝えたい内容を入れるといいとのことでしたので、プレゼンテーションの作成などに活かしたいと考えています。
- (44) 既存の講義内容について、チェックシートを基に見直すことはすぐに取り入れられそうだと感じた。
- (45) 図書館を紹介する資料類を作成する際、利用者へ何をどう伝えるべきなのかを示すための参考となりました。
- (46) インストラクショナルデザインの再認識ができた、また、授業をデザインすることで効果的なスキル習得を試みることができることも分かった。本学においてもう少し授業デザインをリテラシー教育の中に取り込み実施していきたい。
- (47) 具体的な資料をいただいたので、計画・評価にさっそく使用する予定です。
- (48) 学習理論について、概観できる資料がもらえたので、今後、業務をこの視点から分析する際に参考にできると思いました。
- (49) 教育工学とはどのような学問かを学んだ。授業の一環としてガイダンスを実施する際のカリキュラム作成に役に立ちそうだと思う。
- (50) 図書館ガイダンス等の内容をつくる際には、受講者のレベルなども考慮に入れて、充分な練り上げが必要だと感じた。
- (51) あまりよくわからなかった。
- (52) 私自身の勉強不足もあり、講義内容について不十分な理解しかえられませんでした。頂いたテキストを元にして、理解を深めた後に、今後の業務に活かしていきたいと思えます。
- (53) IDの課題解決アプローチにそってこれまでのガイダンスを見直すきっかけとなった。特に分析部分の不足を感じ

- た。資料で頂いたチェックリストをもとにこれまでの授業や研修を振り返ってみたい。
- (54) 教育工学の歴史、理論などが存在することは理解できましたが、業務に活用できるまで理解できたとは言い難いです。
- (55) 現在新入生向けに行っているデータベースガイダンスの授業設計を見直したい。
- (56) 授業の構成の大切さを学びました。情報リテラシーの授業を、再度講習で学んだ視点から分析して、受講者目線で再構築し取組んで行きたいと思いました。
- (57) インストラクショナルデザインについてインスタラクショナルデザインの考え方・手法に基づいて、現在行っている授業や講習会をあらためてチェックし、見直しをはかりたいと思いました。
- (58) なかなかしっかりと計画をたててガイダンスや情報リテラシー教育をできなかった。セッション2で重要性が分かった。
- (59) 今回、受講したきっかけは「講習会をデザインする」というタイトルに惹かれたからです。しかし、私の知識不足のためにそもそも「インストラクショナル・デザイン」というものが分からず・・・理解できないままに終わってしまいました。ただ、入口と出口が大切であるということだけは、頭に叩き込み、利用者説明会を一から見直したいと感じました。
- (60) 図書館で実施している講習会について、そもそもの目標設定や受講者の分析から出来ていないことを痛感しました。学生にどのようなスキルを身につけさせたいのかについて根本から問い直すことが必要だと思っています。講習会全般について見直すことに、今回のセッションで学んだことを活用したいと思います。
- (61) 講師の先生も、持ち帰ってじっくり確認してほしいとのご発言がありましたが、論理的に完成され視覚化された配布資料の内容と情報量に、正直講義時間内は圧倒され、ついていけない自分を感じてました。
- (62) 教育工学の話が難しくよくわかりませんでした。「講習会をデザインする」というタイトルから、もっと実践的な(実務に即した)内容かなと思っていましたがちょっと期待していたものとは違っていました。

### 3.2.6. その他コメント

#### 今後の研修会で扱ってほしい内容や方法

- (63) 学術上の理論と共に、実務上の観点からの解説やアドバイスも学べたら良いと思う。
- (64) 色々な学習法や、新しい研修会のスタイルを知ることができる機会・研修会の評価・改善方法について（どのようにデータ収集し、どのように効果をはかるか）
- (65) 研修設計とデータ収集および事後分析の方法について、ワークショップ形式でやってみたいです。
- (66) ワークショップ形式で研修会の企画方法を扱ってほしいです。
- (67) 例に挙がっているワークショップ形式で実際の研修会を企画するものや、学生から学習方法やレポートの書き方等を相談されたときの対応方法に関する研修があれば参加してみたいです。
- (68) 例に挙げている内容と同じ。ワークショップ形式で実際の研修会の企画、研修を改善するためのデータ収集と分析の方法など
- (69) 学習支援について、引き続き取り扱っていただきたいです。
- (70) 資料のデジタル化について（利用者へのデータ提供のあり方、デジタルカメラ撮影許可等）対応を考えられる内容の研修
- (71) 基本的なところで、教えるときの発声の仕方や目の動き、強弱などのテクニック。・アクティブラーニングの他の技法「ピア・インストラクション」や「ポスターツアー」を図書館ガイダンスとして設計するような、実践的な研修
- (72) この内容の第2弾、より深めたものを計画してほしいです。プロジェクト学習やコーチング、ファシリテーションなども興味があります。
- (73) デザインした講習会が適切で効果的なものであるかどうかについて、図書館職員だけでは自信がなく判断することが難しいように感じるので、専門家に企画内容を講評してもらいたいと思います。例に挙げられた「研修を改善するためのデータ収集と分析の方法」についても興味があります。また、図書館で実施する学修支援はどうあるべきかというテーマにも興味があります。教員、図書館職員、学生スタッフなど様々な主体が考えられると思いますので、それぞれの立場の方から実践について伺い、その後ワークショップを行うなどすると面白いのではないのでしょうか。
- (74) 図書館の研修会等は、図書館関係の事例発表が多く、それも大変重要だと思いますが、ワークショップ的な研修形式の研修会が増えるといいと思います。図書館員が、学生へ情報をどう伝えればよりよく伝わるのかといった教育的な手法を含むワークショップに、皆さん関心があるのではないかと今回の研修に参加してみて感じました。
- (75) 例として挙げられている「ワークショップ形式で実際の研修会の企画」「研修を改善するためのデータ収集と分析の方法」はもし開催されるのなら、ぜひ受講したいです。

#### その他

- (76) 7月に担当が替わり、初年次向けのガイダンスをどうすべきか悩んでおりましたので、このタイミングで本研修会を受講できたことは大変有難く存じます。心より御礼申し上げます。
- (77) この度は有益な時間をいただきありがとうございました。
- (78) 大変お世話になりました。どうもありがとうございました。各先生に紹介していただいた図書は自館所蔵をチェックして未所蔵なら購入したいと思います。
- (79) 貴重な機会を設けていただきありがとうございました。
- (80) 貴重なお話をお聞かせくださりありがとうございました。
- (81) 他大学の方と取り組む課題もあり、単に講義を聴くだけでなく、他大学の事例も伺えるよい機会となりました。準備等大変だったかと思いますが、このような機会を設けてくださりありがとうございました。
- (82) ありがとうございました。
- (83) 良い刺激になり、とても勉強になりました。ありがとうございました。
- (84) 参加させていただき大変参考になりました。ありがとうございました。
- (85) グループワークで、開ロ一番「これは無理」「図書館ではできない」等の否定的な意見から入られると、そこで話が止まってしまう建設的なディスカッションへもっていくのに苦慮した。実際の学生でもおそらくそのような場面は

起こりうると思うので、その時の対処法を学ぶことや予めディスカッションの前のルール（否定せずとりあえず肯定からはいる、全員が同じ時間しゃべる）などを設定することが必要だと感じた。

- (86) どうもありがとうございました。
- (87) 私立大学にも機会を与えてくださり、感謝申しあげます。国・公・私の垣根を越えて今後ともよろしく願いします。
- (88) 初めて参加させていただいたのですが、大変有意義なものでした。今後ともどうぞよろしく願いいたします。
- (89) 有益な研修を企画していただき、ありがとうございました。
- (90) 図書館の研修会・研究会の参加だけでは、なかなか聞けない内容でしたので、大変有意義な企画でした。ありがとうございました。
- (91) アンケートのURL が送られてくるのがもう少し早い（翌日か、せめて週明けの月曜くらい）と良かったです。10日も経ってからでは当日のことを忘れ始めてしまいますし、回答するモチベーションも下がってしまいます。19日の時点での回答率が半分ほどだそうです、もう少しURL の送信が早ければもっと回答が届いていたのではないかと思います。